

広陵町子ども・子育て支援事業計画(第3期)に対する意見及び回答

1 実施期間 令和7年1月9日(木)から1月22日(水)

2 受付結果(1)受付人数 5名
(2)意見数 19件

3 意見及び回答

意見 番号	ページ 項 目	ご意見・ご提案等	回 答	担当課
1 (5)	43ページ 第4章 施策の展開 基本目標1 子どもも親も切れ目なく支援する環境づくり 1 誰ひとり取り残さない相談支援体制の構築 (1)相談支援体制の充実	家庭訪問型子育て支援ボランティア事業(ホームスタート)が始まるのは良い事だが、団体の事業の継続性や費用対効果が不透明で心配。補助するからには、行政としても責任を持ってやっていただきたい。	この補助事業は、アウトリーチ型の相談支援を行うことにより子育て家庭の孤立化を防止し、支援を必要とする家庭を早期に発見することで、適切な支援につなげることを目的としています。 このため、事業者には毎月訪問したケースについて報告書を作成していただき、これをもとにこども家庭センターの子ども家庭支援員などを交えて活動状況や支援内容を詳細に聞き取り、連携を図っているところであります。 今後もこの事業が、児童虐待の早期発見や切れ目のない支援のための効果的なツールとなるよう、責任をもって実施してまいります。	子育て総合支援課
2 (6)	48ページ 第4章 施策の展開 基本目標1 子どもも親も切れ目なく支援する環境づくり 3 子育てにかかる経済的負担の軽減 (1)妊娠・出産に関する支援	誕生祝い品事業として、絵本よりも、オムツの廃棄に費用がかかるので、燃えるごみ袋10袋の方が助かる。	絵本については、「赤ちゃんの頃から絵本に親しんでもらいたい」という思いから、ゴミ袋に関しては、「ご家庭のご負担を少しでも減らせたら」という思いから始まっております。 現在おむつの廃棄につきましては、指定袋ではなく、透明または半透明の袋に入れて燃えるゴミの日に別に出していただけます。 いただきましたご意見につきましては検討させていただきます。	住民課
3 (17)	49ページ 第4章 施策の展開 基本目標1 子どもも親も切れ目なく支援する環境づくり 3 子育てにかかる経済的負担の軽減 (2)子どもを持つ家庭への経済的支援	子育ての不安は経済的な面が最も多いと分析されている。物価高騰で益々不安は募る。義務教育は無償と言われながら教材費や給食費がかかる。一日も早い給食費の無償化をお願いしたい。	学校給食は、望ましい食事の在り方や、食育による人間形成、環境保全に寄与する態度を養うことなどを目的として行われる教育活動となります。 これに要する教育費用負担が、居住する自治体の財政力によって著しい格差が生じることは公教育の機会均等の観点から適切ではなく、国に対して小中学校給食費の恒久的な無償化を速やかに実現されるよう、今後も継続して要望してまいります。	教育総務課
4 (7)	50ページ 第4章 施策の展開 基本目標2 子育てと仕事のバランスを支援する環境づくり 1 多様な保育ニーズに対応するための支援 (1)保育サービスの充実	多様な保育ニーズに対応するための支援として、24時間365日対応保育や病児保育を充実して欲しい。そして利用の手続きを簡素化して欲しい。	広陵町では保育園だけでなくショートステイ・トワイライトステイ、一時保育、ファミリー・サポート・センター事業など、対象児童の状況や利用ニーズに合わせた事業を実施しております。また、「病児保育室ぽっぽ」につきましては香芝市と協定を結んでおり、香芝市在住の方と同じ料金で利用することができます。しかし、広陵町内には現在24時間365日対応の保育園や病児保育を取り扱う施設はなく、事業の充実につきましては今後の検討課題となっており、今後の協議の中でどのような形でニーズに应运えていくのか検討していく必要があると考えております。手続きの方法につきましても、貴重なご意見として今後の参考にさせていただきます。	こども課
5 (8)	52ページ 第4章 施策の展開 基本目標2 子育てと仕事のバランスを支援する環境づくり 1 多様な保育ニーズに対応するための支援 (2)地域における子育て支援サービスの充実	広陵町子育て支援施設「ポケット」の費用対効果を検証して欲しい。利用可能時間等が短くどれだけの方が必要としていたのか不透明。ポケットの周知活動も弱い。	広陵町子育て支援施設「ポケット」については、町ホームページや子育てパンフレットに情報掲載をしているところです。本施設は、日曜保育等町内認可園で回収できないニーズの受け皿としての役割があると認識しています。また、利用ニーズに基づく費用対効果の検証については、今後の計画策定の参考にさせていただきます。	こども課
6 (9)	53ページ 第4章 施策の展開 基本目標2 子育てと仕事のバランスを支援する環境づくり 1 多様な保育ニーズに対応するための支援 (2)地域における子育て支援サービスの充実	ファミリー・サポート・センター事業に関しても、周知活動が弱い。提供会員としての登録も年1回では少ない。依頼会員と提供会員が参加するイベントなどを開催などして交流する必要なども良いのでは。	ファミリー・サポート・センター事業がより充実した制度となるよう、会員募集機会の拡充やイベントについて検討させていただきます。	こども課

意見 番号	ページ 項 目	ご意見・ご提案等	回 答	担当課
7 (10)	54ページ 第4章 施策の展開 基本目標2 子育てと仕事のバランスを支援する環境づくり 2 多様な働き方の実現に向けた取り組みの推進 (1)子育てしやすい職場環境づくりの推進	育児・介護休業制度の普及・啓発を町広報でとあるが弱い。専門家である社会保険労務士と協力し、育児休業・介護休業100%の町を目指して欲しい。まずは広陵町の行政職員が育児介護休業制度を必ず取得することから始めてはいかがか。	育児・介護休業制度について、事案が生じたら早いタイミングで人事担当課に報告をするように全職員に発信しております。両立支援ハンドブックを全職員に配信しており、妊娠、出産及び介護に直面した職員に対しては、面談等を実施し、詳しく制度の説明を行い切れ目のない支援体制の確立に努めております。結果として、休暇及び休業の取得率も向上しております。また、情勢に応じ、制度の拡充や見直しを適宜行い、町での好事例を町内事業所に周知をまいります。	秘書人事課 産業総合支援課
8 (11)	59ページ 第4章 施策の展開 基本目標3 子どもが自分らしく育つ環境づくり 1 子どもの居場所・交流の場づくり (3)子どもの遊び場・体験機会の充実	子ども将棋講習会・映画祭は本当に必要か。	将棋を指すことは、集中力・忍耐力・記憶力・相手の思いを読む力等、生きていく上で必要な力を育成させます。 映画を観ることは、道徳心を養い、自分で考える力・想像力等を育成します。今後も子どもたちの情操を培うために実施していきます。	中央公民館
9 (18)	59ページ 第4章 施策の展開 基本目標3 子どもが自分らしく育つ環境づくり 1 子どもの居場所・交流の場づくり (3)子どもの遊び場・体験機会の充実	子連れで楽しめる場所や機会を求める声が多くある。なかよし広場など、親子で参加できる場所はいくつかあるが、雨の日でも気兼ねせずに、身体を動かして遊べる場所や専門家の音楽や絵画などに触れる公民館の充実をお願いする。	今年度、中央公民館にて子どもを対象としたお箏教室・絵画教室等を開催しました。 今後も夏休み等を活用した子ども対象の文化教室を開催して文化芸術に触れる機会を作っていきます。 また、雨の日でも身体を動かして遊べる場所も含め、子どもの居場所作りを検討してまいります。	中央公民館 こども政策課
10 (2)	62ページ 第4章 施策の展開 基本目標3 子どもが自分らしく育つ環境づくり 2 子どもの「自分らしさ」と「生きる力」を育む教育環境の充実 (2)学校教育の充実	心の相談員の配置について、気軽に相談できる方法を検討していただきたい。不登校専門の方がいるとよい。Zoomを使用した相談を検討してほしい。相談員や相談回数を増やしてほしい。相談日時も平日の夕方までと、働いてる場合は休みがとりづらく時間も調整しづらく利用しにくい。	心の相談員(スクールカウンセラー)は、児童生徒、その保護者および関係教職員の相談に応じており、その内容は不登校は勿論、友人関係、親子関係等多岐にわたります。 学校生活に関わる相談は、まずは児童生徒、保護者様と関係性のある学級担任が中心となって共に考えさせていただいております。その中で教師とは異なる立場の専門的な助言等が必要な場合には、心の相談員(スクールカウンセラー)にも相談して、個々の状況に対処していくこととなります。 相談は、児童生徒も相談できるように学校開庁日に実施していることから、保護者様の相談については、調整が難しい場合もあります。 このため、相談を受けることができる機会を増やすための対策は、毎年検討しているところですが、専門的な要件を必要とすることから十分とはいえません。なお、オンライン等による相談は、相談ツールとして今後の検討課題であることは認識しているところです。	学校支援室
11 (3)	63ページ 第4章 施策の展開 基本目標4 子どもを守る環境づくり 1 子どもの権利の尊重と児童虐待の防止 (1)子どもの権利を尊重する意識づくり	子供の人権教育について、学校に通う子供達が、先生のどういった行動が人権侵害やハラスメントになるかも気付き周りの信頼できる人に相談できるようになる教育も含めていただきたい。 小さい子は外見の外傷等がない限り、ハラスメントされていることを大人は気づいてやれない。 ハラスメントが起こらないよう何らかの対策をお願いする。	今回いただいたご意見を参考に、今後の施策を進めていくことを検討してまいります。人権侵害・ハラスメントについても相談しやすい体制の充実を検討していきます。	生涯学習課 こども課
12 (12)	66ページ 第4章 施策の展開 基本目標4 子どもを守る環境づくり 2 様々な子どもと子育ての支援 (2)障がい児施策の充実	放課後子ども育成教室における障がい児の受け入れ推進をしっかりと欲しい。職員に対して、研修等を行って質を担保して欲しい。	放課後子ども育成教室については、サービスの充実や質向上を目的に運営の民間委託を順次実施しているところです。児童の安全・安心な放課後の居場所の提供を継続して行えるよう今後も引き続き事業運営に尽力して参ります。	こども課
13 (13)	69ページ 第4章 施策の展開 基本目標4 子どもを守る環境づくり 2 様々な子どもと子育ての支援 (3)経済的困難を抱える家庭への支援	子どもの貧困対策事業として、第3の居場所づくり等の研究を行います。とあるが大学教授ではないので、研究ではなく補助をしてあげて欲しい。	こどもの貧困対策事業について、貧困状態にあたる子は潜在的なもので、本人にも自覚がないケースがあるためすぐには見つからないなどの課題が考えられます。そのためアンケート調査等を実施し、貧困状態にある子の把握に努めております。また具体的にどのような支援を求めているのかを把握して事業を進めていく必要があると考えます。こどもの現状の把握、地域で実施している事業の状況を踏まえ、課題や改善方法を模索し、貧困状態にあたる子たちが安心して過ごせるような第3の居場所づくりの実施に向けた検討を行なってまいります。	こども政策課

意見 番号	ページ 項 目	ご意見・ご提案等	回 答	担当課
14 (4)	70ページ 第4章 施策の展開 基本目標4 子どもを守る環境づくり 3 子どもの安全の確保 (1)交通安全対策の強化	子供の通学路の見直し、それに伴った通学路の整備をしていただきたい。家から学校まで、安全な道を通るためにかなりの遠回りをして通学しないといけない。交通量の少ない安全な道を選んでいることは理解できるが、距離が長くなれば長くなるほど、危険も伴う。夏は暑く、長時間炎天下の道を歩くことも、これからは命に関わってくる。できるだけ短い距離で通学できるよう、今通学路になっていない道を通学路として通れるように整備していただきたい。	通学路については、可能な限り最短の経路となるように設定しているところではありますが、交通量や歩道の有無といった道路の状況を考慮して安全な道を選択する関係上、結果的に遠回りとなってしまうこともあります。引き続き、安全と通学時間の短さが両立できるような通学路が設定できるように学校と共に検討を進めてまいります。なお、通学路上の危険箇所等については、PTA等から学校を通じて毎年報告してもらい、通学路点検を実施し、関係機関と協議の上、各種対策を行っているところであることを申し添えます。これからも学校等と協議の上、安全な通学路が確保できるよう対策を行ってまいります。	教育総務課 安全安心課
15 (14)	83ページ 第5章 子ども・子育て支援の具体的事業目標 4 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策 (4)子育て短期支援事業	子育て短期支援事業、令和11年まで3人日とある。隠れたニーズはあると思うが、周知活動や利用する敷居を下げる工夫が必要ではないか。育児しやすい街づくりに本気で取り組んで欲しい。	子育て短期支援事業は、一定期間の宿泊を伴う預かりなど、他の事業では満たすことのできない需要に対応できる貴重な事業であると考えております。そのため、ホームページ等による一般的な周知に加え、日々の相談対応の中で、個別に本事業を紹介することを行っております。本事業については、受け皿となる児童養護施設等に空きが不足しがちであることが課題であったため、これを解消するべく本町では里親への委託も開始しました。新生児訪問や乳幼児健診時にチラシを配布するなど今後も必要な方に利用しやすいものとなるよう、周知活動に努めてまいります。	子育て総合支援課
16 (15)	88ページ 第5章 子ども・子育て支援の具体的事業目標 4 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策 (9)病児・病後児保育事業	病児・病後児保育事業として、広陵町にも頑張っている場所を確保してもらいたい。そして使いやすくして欲しい。	広陵町では現在町内には馬見労務保育園にて病後児保育事業を実施しており、病児保育については大和高田市の「ぞうさんのうち」、香芝市の「病児保育室ぽっぽ」と連携をとって実施しております。しかし病児保育については広陵町内では現在実施しておらず、今後の検討課題になると考えます。利用のニーズ等を調査し、病児・病後児保育事業について検討を考えていきます。	こども課
17 (16)	88ページ 第5章 子ども・子育て支援の具体的事業目標 4 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策 (10)ファミリー・サポート・センター事業(子育て援助活動支援事業)	ファミリー・サポート・センター事業の目標とする依頼会員数・提供会員数・マッチング件数をわかりやすく記載して欲しい。目標値も低い。	量の見込みは、国の指針に基づき設定が必要な数値であり、本事業においては利用人数や回数で表すこととされております。現在の提供会員数、依頼会員数、及び実績から、今後の周知等による拡大も勘案して目標値を設定しております。	こども課
18 (1)		大型テーマパーク、大型スーパーマーケットの誘致や、子供が行きたくなる場所を作ってはどうか。箸尾は住宅地ばかりで、店や娯楽施設がない。荒れ地を開発し、大型スーパーを誘致すれば、電車の交通利便性も上がり、人も子供も増え、税収も上がると思われる。	広陵町都市計画マスタープランにおいて、箸尾駅周辺については、「箸尾駅前線の整備を促進していくとともに、駅前広場の整備、住宅地や商業・サービス業等の都市的土地利用の誘導や土地利用の高度化を図るとともに、駅周辺の商店街等における賑わいの創出を目指し、交通・商業拠点の機能充実を図る」としています。今後、計画の実現に向けて、駅前広場の整備等、箸尾駅を中心としたまちづくりを進めて参りたいと考えています。また、大型施設等の人が集まる施設の誘致に関しましても、貴重なご意見として参考とさせていただきます。	都市整備課
19 (19)		地域づくりという事が基本的にかかれている。もちろん地域でのつながりは大切であるし、核家族が増える中益々重要である。しかし民間やボランティアに依存するのではなく、公的責任の下で豊かな政策をお願いしたい。	広陵町では核家族世帯の割合が高く、こども・保護者ともに安心して生活できる地域づくりを進めていくことは重要な施策だと考えます。ご意見いただいたとおり、ニーズに応じた相談体制の整備の充実など町の責務として施策実施に向け検討していく必要があると考えます。また、行政だけでは行き届かない部分については民間やボランティアと協働し取り組んでいく必要もあります。「ともにこどもの未来を応援する地域づくり」という基本理念に基づき、今後とも施策を進めてまいります。	こども課

※意見番号の下段は事前に配布している資料の意見No.に対応。